

滋賀県がん診療連携協議会・第3回相談支援部会

日時：平成31年3月19日（火）10：00～11：30

場所：県立総合病院 新館4階講堂

（敬称職名略）

- 【部会長】 滋賀県立総合病院 山内
- 【副部会長】 大津赤十字病院 塘、市立長浜病院 伏木
- 【部会員】 滋賀医科大学附属病院 木村、
大津赤十字病院 山本、滋賀県立総合病院 がん相談支援センター 岡村、
公立甲賀病院 看護部 岡本、彦根市立病院 がん相談支援センター 乾 <代理>森口、
市立長浜病院 がん相談支援センター 橋本、高島市民病院 地域医療連携室 大塚、
市立大津市民病院 地域医療連携室 上林、草津総合病院 吉村、
済生会滋賀県病院 がん診療支援センター 山田、
近江八幡市立総合医療センター 患者総合支援課 木本、
長浜赤十字病院 がん診療支援室 寺村、東近江総合医療センター 長岡、
滋賀県薬剤師会 渡邊、
滋賀県歯科衛生士会 中西、滋賀県がん患者団体連絡協議会 菊井、
滋賀県がん患者団体連絡協議会 須藤、
滋賀県健康医療福祉部 大井、滋賀県立総合病院 川邊
- 【事務局】 滋賀県立総合病院 地域医療連携室 湊山
- 【欠席部会員】 滋賀県医師会 重永、滋賀県歯科医師会 柴田、滋賀県看護協会 梅本
- 【オブザーバー】 滋賀県立総合病院 緩和ケアセンター 吉田

1. 部会長あいさつ

（山内部会長）

2. 【審議事項】

(1) 平成30年度相談支援部会の取り組み評価（最終評価）について

（事務局）

- ・平成30年度実施計画に基づき実績・取り組み内容を報告。ほぼ計画どおりで目標を達成したことで「A」の評価をさせていただいき、部会員の承認をいただいた。

3. 【報告事項】

(1) PDCA サイクルについて

平成30年度がん相談後アンケート_集計表(4月～1月)

平成30年度(2月1日時点)がん相談支援センター等がん相談窓口取り組み実施について

（事務局）

- ・平成30年度がん相談後のアンケートについて、今回は平成30年4月から本年1月分までが対象。対象13施設中9施設より回答があり、187件のアンケート集計を行った。結果としては、相談の6割以上は患者ご自身からであり、初めて利用される人が86%。内容では役に立ったという声が93%。相談後の変化についてはマイナスが少なく、相談した結果、気持ちが良い方向に変化されているのではないかと推測される。今後もアンケートは相談者の生の声を反映するものであるため今後も継続していくこととしたい。
- ・がん相談支援センター等がん相談窓口の取り組み実施状況については、各施設から本年2月1日時点での状況を報告いただいた。本年度4月当初に比べ、相談員数はプラス1の64名となっており、基礎研修(3)の受講者も26名から33名と増えていること等から、全体として人的に充実に向かっていると判断できるのではないかと考える。こちらについても、がん診療連携拠点病院等の整備に関する新指針や、国立がん研究センターのWG等の結果を踏まえ、必要により修正を加えていきつつ継続したいと考える。

(2) 「滋賀の療養情報(第6版)」について

(事務局)

- ・滋賀の療養情報(第6版)については、これまでWGや第2回相談支援部会等で内容を確認いただいた後、印刷業者決定の上で、現在校正を進めている。2回目の校正時には部会員の所属施設等の情報に誤りがないか再度個々に確認をいただき、3回目の最終校正を進めているところ。先に連絡をしているとおり、本日の17時までなら修正が可能であるため、必要な場合は連絡いただきたい。
- ・今年度の作成部数は6,000部であり、これは同じ予算であった平成28年度3,000部の2倍、昨年度平成29年度の400部の15倍と大幅な増刷ができる見込みとなっている。
- ・6,000部の配布先につきましては、昨年8月時点の希望部数アンケート時から追加を希望される施設等については、作成部数内に収まるよう、各々追加希望数に65%という係数を加えさせていただき調整を行っている。
- ・各施設等におかれては、一人でも多くのがん患者に行き渡るよう大切に扱っていただくよう御配慮願いたい。

(3) がん相談支援センター等の相談員の資質向上について

- ・第2回がん相談支援センター相談員スキルアップ研修会の開催(平成31年2月15日開催)
～就労支援の実践について～ アンケート結果から

(県立総合病院)

- ・今回の参加者は11名。ほとんどの拠点病院の相談員の方に参加いただいた。本研修については、就職・就労、治療と仕事の両立支援に関わる専門職3名にも参加していただき、一緒に学び合うという機会を設けた。アンケートの結果としては、「よく理解できた」、「概ね理解できた」という回答が多かった。開催曜日に関しては、平日や土日の開催を望む意見が分かれていたため、今後の開催に当たり検討をしていきたいと考える。毎年2回の研修を企画しており、次年度も予定している。

(4) 第11回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会からの報告事項

(県立総合病院)

- ・平成 30 年 12 月 4 日に第 11 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会が開催された。内容については、ホームページに掲載があるため、今回は部会に関係することについて紹介する。
- ・各施設等においては相談支援シートを標準化して記入していただいているが、新指針に伴って項目が変更される見込み。3 月中には具体的な内容がホームページに掲載される予定であるため、掲載があればメーリングリスト等でお知らせする。4 月以降は項目が変わることを認識いただき、できれば新様式を活用いただきたい。
- ・実施状況のチェックリストについては、国立がん研究センターの WG で検討が進められており、大幅に内容が変更される見込み。次年度以降新たなものになる予定。
- ・「地域がん相談支援フォーラム in 近畿」が毎年開催されているが、来年度は兵庫県が担当予定。テーマは「高齢がん患者の支援を考える（仮）」。2019 年 10 月 6 日(日)10～16 時に、神戸市立医療センター中央市民病院において開催される見込み。具体的な内容が明確になれば、兵庫県から募集の案内があると思われるので予定をしておいていただきたい。

(5) 県の報告事項

・がん患者家計プラン事業の結果について

(県健康医療福祉部)

- ・皆様にご協力をいただき、平成 30 年度がん患者家計プラン事業を実施させていただいた。梅花女子大学に委託の上で、実施した事業ではあるが、本日は県健康医療福祉部から報告させていただく。
- ・今年度の事業構成としては、主として「がんと診断されたとき知っておきたい医療費の話」のパンフレットの評価が軸となっている。そのため、相談員に記載いただいている相談支援シートの分析を行った。具体的には、そのシートに「当パンフレットを持って相談に来られた方」についても特別に計上してもらい、相談項目についてもいくつか追加していただき、3 ヶ月間集計を行った。その他、がん教育の実態調査を行った。
- ・協力機関数は 12 施設であり、昨年度より 1 施設増加。データ収集期間は 7～9 月の 3 ヶ月間。相談件数は約 100 件減少していた。相談の状況として、相談場所は「院内」が減っている。対応方法は「対面」が減っていて、「電話相談」や「NET/FAX」が増えている。また、相談窓口への紹介については「主治医からの紹介」がかなり増えているなど相談状況の確認ができた。しかしながら、「当パンフレットを持って相談に来られた方」の数は少なくパンフレットの評価には至らなかったが、相談の内容として医療費や社会保障制度などについてもあるため、当パンフレットを相談に活用いただきたい。
- ・まとめとしては、相談件数の減少や自施設の割合の増加などに伴い、窓口がない地域、がん相談支援センターが設置されていない他の施設への啓発が重要になってくると考えられる。また療養生活に関する患者への情報提供や、働き盛りの世代への社会生活・就業・仕事の相談、医療費・生活費・社会保障制度の相談機能の充実などが望まれていると思われる。更には、すべてのがん患者に適切な情報を伝える仕組みづくりや、がん診療連携拠点病院・がん相談支援センター等窓口の住民啓発への参画、がん教育の推進におけるがん診療連携拠点病院の役割強化が重要になってくると考えられる。
- ・詳細としては報告書として年度末に取りまとめられる予定。

(6) その他

・日本癌治療学会 認定がんナビゲーター制度について

(伏木副部長)

- ・「がん医療ネットワークナビゲーター」および「がん医療ネットワークシニアナビゲーター」に関する紹介。また当ナビゲーターの活動への支援、並びに資格取得希望者への協力依頼。

・滋賀県がん患者団体連絡協議会の連絡事項

(がん患者団体連絡協議会)

- ・4月から新たに80名弱の人数でスタートする「がん患者サロン」についての連絡。協力依頼。
- ・本年度の「がん患者サロン」の活動について紹介。状況別の AYA 世代のサロン、再発転移ステージ4の方のサロンを1年間開催。AYA 世代のサロンについては出席者が少なかったが、1月に9名と多くの方に参加いただいた。再発転移ステージ4の方のサロンについても院内放送をしてもらっていることもあり、入院患者やその家族など多くの方に来ていただいている。良い会になっており、悩んでおられる方等がおられたら、ぜひ紹介いただけるとありがたい。新年度に向けて新しいチラシを作成し各施設あてに送付するので、掲示・案内等でも協力を願いたい。
- ・AYA 世代に関するタイミングの良い情報提供が功を奏した事例の紹介。情報冊子「滋賀の療養情報」についても、患者に丁寧に渡すことと共に患者が必要とする時に届くということが大切である。相談支援部会のテーマとしてもそのようなことを含め検討していただきたい。

・滋賀県の取り組みの発表について

(山内部会長)

- ・妊よう性温存の講習会については皆様の協力を得て開催ができた。この滋賀県の取り組みがうまくいっていることが国にも届いたようで、先の報告にもあった「第11回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会」において滋賀県の取り組みについて発表する機会を得られた旨を報告させていただく。他県には横の繋がりで協働により行う事業があまりないということで、滋賀県の取り組みが評価されたのではないかと考える。
- ・先のアンケートにもあったように再発・転移の患者の相談が増えている。治療の選択肢が増えていることや、医療費のことなど、相談については判断や説明が難しい内容も多々あり、相談員では説明が困難な場合は是非とも医師等と協力いただき、患者等に対応していただきたい。

以上